

## 第7回川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアムあり方検討部会 会議録（摘録）

- 1 日 時 令和3年6月30日（水） 午後4時00分～6時00分
- 2 場所 川崎市役所第3庁舎18階講堂
- 3 出席者（委員はテレビ会議システムによる参加）
  - （1）委員 大原委員、垣内委員、金山委員、榎木委員、佐藤委員、杉浦委員、田中委員
  - （2）事務局 市民文化局市民文化振興室：中村局長、原担当理事、山崎室長、白井担当部長、平井担当課長、磯崎担当課長、植木担当係長、功刀職員  
市民文化局企画課：吉田担当課長、庄野担当係長
  - （3）オブザーバー 教育委員会事務局文化財課：服部課長  
川崎市市民ミュージアム：佐藤副館長（学芸部門長兼務）
  - （4）関係者 株式会社トータルメディア開発研究所：佐藤氏、松山氏
- 4 次 第
  - 1 開会
  - 2 議事
    - （1）本市における博物館及び美術館のあり方について
    - （2）その他
  - 3 閉会
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 1名

### （次第一） 開会

事務局

第7回川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアムあり方検討部会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。議事に入るまでは進行を務めさせていただきます、川崎市市民文化局市民文化振興室の白井でございます。どうぞよろしく願いいたします。前回同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本日は委員につきましてはリモートによる出席とさせていただきます。ご了承お願いいたします。併せまして、本日田中委員につきましては、出席の予定と伺っておりますので、途中から参加される際には

ご案内させていただきます。

それでは配布資料の確認なのですが、本日の資料としまして、次第や名簿のほか、資料として「川崎市市民ミュージアムの今後のあり方について一答申（案）」のみとなります。

それでは会議に移らせていただきます。川崎市文化芸術振興会議規則第4条第1項の規定に基づき垣内会長が議長となりますので、これからの議事進行につきましては垣内会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

垣内議長

それでは議事に沿って進行いたします。まずは会議の公開等について事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

それではまず定足数についてご報告させていただきます。本日は委員総数7名中6名の出席をいただいております。川崎市文化芸術振興会議規則第4条第2項の規定に基づき、半数以上の委員が出席しておりますので本日の会議は成立していることをご報告いたします。次に会議の公開についてでございますが、川崎市文化芸術振興会議は市の審議会に準ずる会議になっておりますので、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例によりまして、個人情報に関わる事項などを除き、公開が原則となっております。この会議では原則非公開にあたる事項は取り扱いませんので、公開となりますことをご承知願います。続きまして本日の会議録でございますが、要約方式により、摘録として作成することとさせていただきたいと存じます。また会議録につきましては、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第5条第2項の規定により審議会等で指定された者の確認を得るものとされておりますので、当会議におきましてもすべての委員により確認することとさせていただきたいと思っております。なお、後日公開いたします会議録におきまして発言した委員のお名前も公開の対象となりますのでご承知おきいただきたいと思います。併せまして、本日は報道各社が取材をされることになっておりますので、本日の会議内容等について報道される場合がございますのでご了承をお願いします。以上でございます。

垣内議長

はい、ありがとうございます。ただいま会議は公開になるとの事務局からのご説明がございました。また会議録につきましては要約方式により摘録として作成すること、会議録の確認はすべての委員により行うこと。本日の会議について報道機関が入ることの3点がご提案されましたが、このとおり進めることとしてよろしいでしょうか。

全員

異議なし。

垣内議長

それでは異議なしということでそのとおり進めさせていただきます。

(次第一 2) 議事

議題(1)「本市における博物館及び美術館のあり方について」

垣内議長

次に次第に沿って議事を進めます。議題の(1)「本市における博物館及び美術館のあり方について」、まずは資料について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

(資料について説明)

垣内議長

はい、ありがとうございます。それではただ今の事務局からのご説明につきまして各委員からご意見あるいはご質問等を頂戴したいと思っております。本日でこのあり方部会も最終回でございます。答申(案)をできるだけ固めたいと考えております。また答申(案)自体はすでに事前に先生方に配布し、ご意見も頂戴しながら修正したと聞いておりますが、時間的な制約もあり十分に盛り込めなかったこともあるかと思っております。本日田中先生が遅れていらっしゃいますが、全員からのご意見を伺いたいと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

一応名簿順で一巡させていただき、さらに必要があればもう少し項目を絞って議論をするということで進めたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

大原先生から、具体的な文言修正等、具体的にご意見を頂戴できれば大変ありがたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

大原委員

はい。もう大抵のことを指摘してもどこかに入っており、かなり広範な内容が含まれているという感じがしますので、特になのですが、あえて言うと、何回か議論に出てきた社会的包摂、インクルージョンという言葉ですけれども、あまりカタカナにしないほうが良いという配慮だったのかと思っておりますが、社会的包摂、多様性という言葉で含まれていると思っております。それをインクルーシブデザインと言っていかどうか分からないのですが、例えば6ページ、「3 施設の考え方」で、(2)「新たな施設について」というのがあります。この中に、次なる施設を作る際にはできるだけ様々な人たちの意見を聞くという意味で、インクルーシブデザインによる施設づくりを考えるということがどこかに入っているといいと思っております。

垣内議長

それは7ページの(2)に社会的包摂ではなくて様々な方の意見を聞くというところが出ていますが。

大原委員

「施設・設備に関すること」のところですね。

垣内議長

7ページの(3)に社会的包摂が入っていますが。事務局の方から何かございませんか。ここの7ページでよろしかったですか。

事務局

はい。おっしゃるとおりで7ページの(2)、(3)で反映させていると考えております。

大原委員

はい。わかりました。それでは6ページの(2)にも、もう少し新たな計画の場面でそういう多様な人たちの参加によって意見を聞くということで、充分かどうかかわからないのですが、多様な人たちの参加によって作り上げていくということがあるとよいかと思いました。以上です。

垣内議長

はい。ありがとうございます。大切なことなので繰り返して書き込むということも重要かと思えます。6ページの(2)と承りました。ありがとうございます。それでは金山先生お願いいたします。

金山委員

全体的にこれまで議論してきたことが反映されている形で特に大きな異論があるわけではありません。ただし、その構成のあり方について、事前の事務局との打ち合わせでもお話ししたのですが、発言したことがほとんど反映されていないので、そのところを確認したいと思います。

まず2ページの「新たなミュージアムの今後のあり方」について、1から10まで箇条書きになっています。ここが3ページから6ページまでのものと文言的に重複している。内容はわかるのですがその整合関係が意味不明です。例えば2ページの4番目「多様な文化芸術に出会い、様々な創作活動云々」というところは、対応関係で見ると5ページの(4)の①の2番目の内容と同じ文章を使っていると思います。次に5番目の「年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず云々」という文章ですが、これも5ページの(4)の2番目の文章を使っている。それぞれ3ページ以降のところをつまみ食いして「新たなミュージアムの今後のあり方」に反映させているのですが、その整合関係がうまく整っていないように見える。「新たなミュージアムの今後のあり方」を読んでも、次に3ページ以降の「答申に至る考え方」の具体的な項目を見ていくと、文言が重複していますし、バラバラ感がどうも目につくと感じました。これが1つです。

2つ目は、3ページ以降の「答申に至る考え方」です。最初の(1)「基本的な理念」が①、②と2つあるわけですが。これを1つの文章にした方が形としてはよろしいかなと思いました。というのは、2つにしていくと、その後の「めざす姿」

とは目標のようなもので、さらにその後の「めざす姿に向けた方向性」がその目標に向けた具体的な行動と内容ということになると思います。そういう構造を考えたときに、この基本的な理念は、例えば「都市川崎の歩みを学ぶとともに、文化芸術により生み出される多様な価値を活かした地域社会をつくる」というように1つの文章にまとめたほうがきれいかなと思います。それが1つあります。

それで、それぞれのところに丸ポチ（・）で、箇条書きで示しているのですけれども、これは「めざす姿」や、「めざす姿に向けた方向性」のところでも内容的に重なってくるので、特になくてもよいのではないかと思います。

それから、3ページの（2）「めざす姿」ですが、事務局との説明の中で、①から④の数字のところだけを表現して、丸ポチ（・）の箇条書きはなくてもよいのではないかと、その方がすっきりするので、削除してもよろしいのではないかと提案しました。これも先程言ったように「めざす姿に向けた方向性」の内容と、この丸ポチ（・）のそれぞれの説明がやはり文章的に重なるのですよね。だから数字のところだけでよろしいのではないかとおっしゃいました。ただ、やはり丸ポチ（・）は必要でそれを活かすのであれば、次の4ページの「めざす姿に向けた方向性」の（1）から（4）があつて、例えば（1）には①～③がありますが、これが3ページのそれぞれの丸ポチ（・）と対応関係な構造はなっているのですが、内容が必ずしも対応していない。例えば3ページの（2）「めざす姿」の「①都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する」というところについて、4ページでは（1）でそのための方向性というのがあります。4ページの（1）の「①現在の川崎の次代への継承」は、この3ページの①の最初の丸ポチ（・）と対応するのですよね。ところがその次の丸ポチ（・）の「鑑賞する人が追体験することで、川崎市の都市化の過程を捉え直す」は、本来なら4ページの（1）の②「都市川崎への誇りと愛着への醸成」の部分に対応するのですが、必ずしも対応関係にはなっていない、というように、必ずしも文言が対応していないので、（2）「めざす姿」は①～④だけ抜き出して、それで「めざす姿に向けた方向性」は、このように活かしていけばよろしいのではないかなとおっしゃいました。

それから最後に、この①、②、③という表現なのですが、番号を振ると何か優先順位のような関係性が見えてくるが、並列の関係になっているので、番号を振る必要はないのではないかと思います。これも事務局の方には事前に説明した通りですが、やはり反映はされていなかったということです。私のほうは以上です。

垣内議長

はい、ありがとうございます。整合性はまだ充分取れていないのではないかと、また構成についても非常に詳細なご確認をいただいて、いろいろ手直した方がよいのではないかとのご提案をいただいたと思います。また、番号については、やはり資料を作るときに番号が振ってあるとわかりやすいといいますが、説明も

しやすいというところもあるのですが、おっしゃるような、優先順位が付いているような意味合いにとられない形で表示できるのかどうかを少し考える必要があるのかとは思っています。ありがとうございました。

まずはとりあえず一巡ということで、次は佐藤先生お願いできますか。

佐藤委員

はい。佐藤です。基本的には、私も内容としては今まで色々と話してきたことが網羅されていると思うので異論はありません。

今回のあり方検討部会の中で、前回も施設の考え方をどこまで盛り込むのかという話があったと思うのですが、2ページの「新たなミュージアムの今後のあり方」の10番で、「被災リスクの少ない場所にする」ということと「利便性も考慮した場所で再建する」ということを、答申でも表明することで明確にされていることはよいと思います。また、おそらく利便性の高い場所に作ることにより、おのずと延床面積、規模が限定されていく可能性があると思います。その時に、特に展示室のような活動を行う場所は規模を決める際に優先されると思うのですが、現状の規模と同様な収蔵庫をどう作るかという話も当然出てくると思います。それについても、6ページで収蔵庫を別に設置する可能性が答申で述べられているので、後はこの答申の考え方を、今後に実際の施設規模の設定や施設整備の内容を検討する中でどのように整理していくのか。内容が盛りだくさんなので、それをどのように入れていくのか。金山先生がおっしゃっていたように、優先順位のないフラットな関係であるのであれば、なおのこと次の段階で、本当にすべてフラットに施設の中に収められるのか、その段階で何かを優先せざるを得ないのか、というようなことを判断する必要があります。そこだけはしっかりと次に考えていかなければいけないことを、次に続く話として付け加えておきたいと思います。以上になります。

垣内議長

はい、ありがとうございます。施設関係についてはなかなか踏み込んだ議論ができませんでしたが、活動に関しては非常に豊かな議論が展開されましたので、こういう活動を可能にする、しかも川崎市が持っている条件の中で最大限可能にするという整理の仕方を事務局の方でしていただいたことになろうかと思います。収蔵品自体も市民ミュージアムは大変多くの収蔵品を持っておりましたが、非常に残念なことに今それがなかなか使えない、修復をしなければならない、場合によっては廃棄も、追加の廃棄も必要になるかもしれないという状況を見据えながら、この活動方針に沿った取り組みができるようにというところになります。佐藤先生のおっしゃる活動の優先順位や、今までの活動をベースにどこをどう強みを活かしていくのかということにつきましては、次のステップかなと考えております。ありがとうございました。

それでは名簿順ですので榎木先生お願いしてよろしいでしょうか。

## 榎木議員

はい榎木です。「Ⅰ 答申」について、私もここに至るまで話されてきた項目や視点がよい意味で幅を持たせた形で盛り込まれていると思うので、ここについて特に大きく盛り込むべきものは見当たらないところなのですが、先程金山先生の指摘とも重なりますが、3ページ「Ⅱ 答申に至る考え方」の1の(1)以降と丸ポチ(・)の間の階層関係は、個々を読む分には理解できるのですが、相互の項目ごとの階層性は読んでいてわかりにくいところがあるかもしれないなど、今改めて見直しての意見ですが感じるがありました。使命とか理念とかめざす姿、めざす姿に向けた方向性が互いにどういう関係になっているのかが、うまく頭の中で整理ができなかったのも、もし最終的にうまく関係付けができるのであれば、少し階層性を考えてもいいのかなと感じるところがありました。やはり理念は非常に大きいものなので、その理念から使命やめざす姿、あるいはめざす姿への方向性が出てくる部分があると思うので、その基本的な理念はめざす姿の(1)、(2)同士で並列させていいのか、それより上の項目として使命が挙げられているのか、その順序立てというのがわかりにくい印象がしました。

後は、これはそういう書き方でよろしいのかもしれないのですが、この「Ⅰ 答申」が核になるのだと思うのですが、この答申と「新たなミュージアムの今後のあり方」の10項目がありますが、その間に挟まっている文章が、むしろ新たなミュージアムの今後のあり方の背景にある考え方なので、順番的には10項目は10項目であって、それを補足する形で市長からの諮問以降の文章があるのが、読んでいく上ではわかりやすいのかなと。あるいは「新たなミュージアムの今後のあり方」という囲み部分は答申の本体に近い部分なので、これは独立してページを設けるなり、整理をして見やすくレイアウトというかデザインする必要があるのかなと感じました。

後は10項目の文言について、終わりの言い回しが、「継承する」、「活用する」、「刺激する」、「育む」、「育む」、「生み出す」、「行う」、「育成する」、「継承する」、「望まれる」ということで、それぞれ適切なものが選ばれたのだと思うのですが、4番と5番の「育む」は使い分けがあってもよいのではないかと思います。4番の文化的感性を育むということと、5番の多様な文化への理解を育むということは、同じ育むでも共通に使っていい部分とそうでない部分があると思うのですよね。ですから5番は例えば「多様な文化の理解を深める」のような形をとると、その育んでいくことと深めていくということで被らずに、その後の8番でも「育成する」が出てきますから、重なったりしているところを整理できるのではないかなと。これはかなり細かい部分ではありますが、単純に重複するのは避けた方がよいのではと思います。

それで言うと、9番も「継承」にさらに肉付けした方が未来ということがニュー

ンスとして出てくるのでよいような気もしますし、継承するだけでなく、そこから新たなビジョンを開いていくような受け継ぎ方があるのであれば、もう少し違う表現があるのかなというか。少し細かい部分ですが、その辺は考えていく余地があるのではないかと思います。現時点で今のとおりです。

垣内議長

はい、ありがとうございます。レイアウトからその構造、この答申に至る考え方の構造化にいろいろな先生方からご意見を頂戴したわけですが、そこは少し考える必要があるのかもしれない。また「新たなミュージアムの今後のあり方」が非常に重要なポイントですので、文言を吟味した方がよいというご提案も、全くそうだと思いますが、5番のところは「育む」を例えば「深める」にするようなご提案をいただきましたが、この9番の「継承する」は具体的な言葉やイメージはありませんでしょうか。

榎木議員

すぐに出てきているわけでは無いのですが、1番に「継承する」が筆頭で出てきているので、それと重ならないほうがよいのではと思いついたところですね。「都市川崎の歴史と文化を記録し現在も含めて未来へ継承する」ということと、9番の「東日本台風の被災の事実」なので、これを次代に継承するというのが、両者継承するという事では無い方がよいのではないかと、9番はもう少し別の言葉があるのではないかなと感じたのですが、こうした方がよいというのがすぐに出てくるわけではないので、この後も考えてみますが、そういう意味合いでお話しいたしました。

垣内議長

はい、ありがとうございます。いろいろなご意見を賜りましてありがとうございます。それでは杉浦先生お願いいたします。

杉浦委員

すみません、杉浦です。金山先生、榎木先生がおっしゃったことにさらに被せる形になってしまうかと思うのですが、画面共有をさせていただいてよろしいでしょうか。

～答申（案）について画面を共有～

2ページ「新たなミュージアムの今後のあり方」のところなのですが、以前の検討部会でもお話ししたかと思うのですが、動作の主体になるのが誰か、といういわゆる主語の問題を感じました。この文章だと、私の読み取りだと主語が4つあるようです。この文章で行きますと、1番が新たなミュージアムの今後のあり方なので「ミュージアムが」と、ミュージアムが主語になるということが基本かと思うので

すが、「ミュージアム」が主語になるのが、「記録する」、「検証する」、「活用する」、「刺激する」、「作る」、「育む」、「提供する」、「展開する」、「生み出す」、「連携する」、「展開する」、「行う」、「育成する」、「検証する」なのですが、それ以外の動詞がありまして、「楽しみ」「学び」「体験できること」等、その他にも4番の「出会い」もそうなのですが、これは「ミュージアムが」体験できるとか「ミュージアムが」出会うではなくて、「市民が」主語なのかなと思います。日本語だと主語が明記されないすべての動詞の主語が同じになると思うので、ちょっとモヤモヤします。

誰が何をするのかについては、この3番と4番に最もモヤっとし続けていまして、最初に内容が重なる部分が多いなと思ってモヤっとしたのですけれども、この会議の前にもうちょっと考えようと思った時に、その原因が、「市民が」、「ミュージアムが」という主語があまり明確になっておらず、さらにそこにたくさんの言葉が重なって出てくるので、これを読んだ人は「今回の委員にはくどくどしたメンバーが集まったのかな」と思われるかなと思いました。当初、このような引っ掛かりがあったため、そこから主語の分析をしようと思いました。また、10番にもすごく引っかかりました。「再建することが望まれる」ということなのですが、ここにも何かすごくモヤっとしました。「誰が再建するのか」と言った時に、「ミュージアムが」再建するのではない。「望まれる」というのも受け身表現なので、誰によって再建が望まれているのかも、はっきりわからない。この4つの主語が混在していること、文言の重なりがかなりあることが、くどくどしさやわかりにくさを生んでしまっているのではないかと感じています。そこをどうできるのか、できないのか、またどうにかするのか、しないのかという決断が必要になるのかなと思っていますが、そこをどのようにするのか。今日が最後の会議でちょっと私にもわからないのですが、気になった点をお伝えしたいと思いました。

それともう1つ。垣内先生が、先般会議でご紹介したウェールズ国立博物館のデビット＝アンダーソン館長がレクチャーを実施してくださいました。そのお話を聞かせていただいて、

～国立ウェールズ博物館のリーフレットを画面共有～

ちょうど国立ウェールズ博物館の次の10年間の戦略の立案をウェールズの人たちに一緒にやってみましょう、と呼びかけるリーフレットをアンダーソン館長にご紹介していただきました。「help shape the future」ということで、このウェールズ国立博物館が呼びかけていますが、ヘルプする主語はウェールズの人たちだと思います。また、7つのミュージアムの連合体がまとまって国立ウェールズ博物館となりますが、自分たちの価値というところが自己紹介の中にありまして、その7つのミュージアムが連合体として持っている価値が次の5つに大別される

とリーフレットに書いてありました。Creativity は創造、Responsibility は責任、Integrity は統合、総合、Inclusion は包括、Collaboration は協働。その言葉に、文章が1文ずつ続いています。このように非常にシンプルなところに持っていくまでに、どれぐらいの議論がされたのかはアンダーソン館長に伺えていないのですが、これだけのボリュームを持った国立博物館群がここまでのシェイプアップされた価値を言語化しているところには、学ぶことがあると思ってもいます。

なので、2ページの「新たなミュージアムの今後のあり方」は、今回の委員である私たちの、ある種、価値観も入っていますし、ある種、日本語能力も反映させていると市民の皆さんに思われてしまうと思っております、気になるところを何とかできないかなと思っております。以上です。

垣内議長

はい、ありがとうございます。主語がどこかについてなかなか日本語で明示しないという部分もありますし、またミュージアムが社会に打ち出すものと専門家である私達があり方検討をした結果を川崎市の代表者である市長に提出する文章であるという若干の違いはあるにせよ、少しくどいというご指摘かと思いますが、この点につきまして取りまとめいただきました事務局の方から最終的なこの文言になったプロセスとか、私たちが知っておいたほうが良いようなことが何かあれば、ちょっと教えていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

杉浦委員

本当にそう思っています。こういったものは、1人の人間が作るものではないと思うので、ぜひそのプロセスが伺えたらと思い、先に勝手なことを言っちゃいましたが、ぜひよろしく願います。

垣内議長

はい。中身自体に反対しているわけでは無いのですけれども、ちょっとこういう打ち出しのあり方で行くということにつきまして、いろいろご意見があるということだと思います。ちょっと事務局の方から補足説明があるとより議論が深まるかと思いますがいかがでしょうか。

事務局

はい。皆さまの完全なお答えになるかどうかわからないのですが、まず「Ⅰ 答申」は本体、結論になるわけで、「Ⅱ 答申に至る考え方」はこのプロセスになっています。3ページの1、(1)「基本的な理念」は、これまでも共有されていると思いますが、これはミッションにあたる部分だと思います。これは2本ありまして、先程金山先生から1本にしたらどうかという提案もありましたが、私どもとしては①については時間軸、②については空間軸みたいなイメージを持っていて敢えて分けた部分もごございます。この2つのミッションの下にめざす姿、ビジョンがあります。ビジョンが4つに分かれていて、このビジョンを達成するために、次のス

テップに行くまでの中間的な橋渡しとしてその方向性を示したのが4ページ、5ページの「めざす姿に向けた方向性」ということと、施設については6ページでまとめた。それを集約したのが2ページということで、ある意味ピラミッド型をこういうふうに、10個に並べさせていただいた形となっております。

整合性については確かに1つ1つ整合をとっているわけではないので、全てについて整合が取れているわけではないのですが、重要なポイントとして引き出したものはこのような10個の項目にしています。主語がといたところについてはご意見があると思いますので、そこについては垣内先生とも相談させていただきながら考えていきたいとは思いますが、ただ、どこのミッションがどこのビジョンにあたるか、またどこのビジョンがめざす姿、どこのめざす姿の方向性にあたるかというのは実際矢印でやってみたのですが、かなりぐちゃぐちゃになってしまいました。あっちにもあたるしこっちにもあたるという。そういうことで図式もなかなか難しいなというところもあって、かなりその部分では検討もしましたし、図にもしたのですが、やはりかえって分かりづらくなるという現状がございます。

ちょっと全体の説明にお答えにはなっていないのですが、一応そういった経緯がございます。以上でございます。

垣内議長

はい。ありがとうございます。では杉浦先生お願いいたします。

杉浦委員

質問してもいいですか。先程伺い忘れてしまったのですが、今のお話で「全部まとめて」ということだったのですが、「1 新たなミュージアムの使命」と「3 めざす姿に向けた方向性」をまとめたのが2ページの「新たなミュージアムのあり方」ということでしたか。

事務局

3ページから6ページまでをまとめたものが「新たなミュージアムのあり方」になります。

杉浦委員

それはやはり3から6までをまとめないといけないのでしょうか。

事務局

今までで活動と施設についてご議論いただいています、そこを含めてまとめさせていただいたということになっております。

杉浦委員

それをこういう四角い枠の中に入れないといけないのですね。

事務局

そのほうがわかりやすいのかなということで皆さんにご提示して、皆さんにご了解をいただいて。

杉浦委員

そうでしたか。かえってわかりにくいかな、と思いました。ミッションとビジョンと方向性は普通に書いていただいた方が分かりやすいと思います。率直に言うと、ミッションもめざす姿も箇条書きとなっていて、それが川崎市市民ミュージアムのあり方です、ということで、それに加えてその方向性や施設の考え方がくっついてくるくらいでもいいかなと思いました。最初は全部まとめて「新たなミュージアムの考え方」に入れてよいと思ったのですが、今伺った時に入れる必要があるのかなと、もう少し根源的な疑問が湧きまして。そこに、今、私や他の先生方もモヤモヤしているところがあると思うのですが、2ページの四角の枠に入れるというデザインをした方が分かりにくくなる可能性もあるかなと思いました。いかがでしょうか。

事務局

そちらにつきましてはすでに、3ページから7ページとページ数としては短いのですが、それを集約するとこの四角になりますということで、そういう構成で皆さんにイメージをさせていただいて他の先生方からはこれでよしいのではないのでしょうかという回答を頂いております。

垣内議長

はい。事務局からのご説明は、今までのプロセスをプロセスとしてまとめて、それをもとにもっとわかりやすく、たぶん杉浦委員の項目立てで示したほうがわかりやすいというご意見を踏まえてこういう形にしたのではと思われるところがあります。

杉浦委員

はい、それはもちろん。ただその四角い枠に入れるかどうかが気になりました。

垣内議長

四角に入れるかどうかというより四角の方がわかりやすいかということだったのですが、ⅠとⅡに分かれているのは、答申の部分はもう1ページで、さらにこの細かい詳細を知りたい時にはⅡの方をご覧くださいという仕分けだったように思うのですが、そういう理解でよかったですでしょうか。まず事務局の方にお伺いした後、金山先生ご意見ありますよね。その後、杉浦先生でお願いいたします。

事務局

はい。垣内先生のおっしゃるとおりでございます。

金山委員

金山です。今の杉浦先生のおっしゃったことは、事務局から説明を受けたときに同じことを言いました。この四角の中というのはとても文章がわかりにくいので、むしろ3ページ、4ページ、5ページの各項目をここへ転載したほうがすっきりするのではないですかと。あるいはこの四角をどうしても川崎市として入れたいと、

作りたいのだったらけど、むしろこの四角を取ったほうがすっきりするじゃないですかという話をしたのだけれども。他の委員も賛成しましたと言われましたが、私は賛成していませんので訂正してください。

垣内議長

はい。了解しました。私はこういう考え方は悪くはないと思いました。なぜならば報告書はどうしても長くなって、全部読む人はほぼいない状況なのですね。なので、1ページにとにかくまとめて、後は大事なところをさらに興味関心がある、あるいは必要がある方はお読みくださいという整理の仕方は、それなりに意味があることだと私自身は思っています。ただこの内容や言葉がちょっとくどいという話や、重なる言葉でちょっと意味合いが違うものも含まれているというご指摘はそうかと思います。杉浦先生のご意見も承りたいと思います。

杉浦委員

先程お伝えしましたように、私も事前に説明を受けた際に、この文章に関してモヤッとしていることをお伝えしました。そしてそれから考え続けていまして、それで主語のことなどが出てくると思いました。そのため、私が資料の四角の枠の部分に関してオッケーですと言った、ということではないと思っております。

それで思いましたのが、「新たなミュージアムの今後のあり方」というタイトルが四角の中であるとして、これを大項目としたときに、中項目として「新たなミュージアムの使命」と「めざす姿に向けた方向性」が出てきて、中項目は小項目に「基本的な理念」が2項目、「めざす姿」が4項目と、四角の枠の中に、先程先生方がおっしゃっていた太文字のところだけ抜き出して入れたらよりわかりやすいとも思いました。そうするとすべての主語がミュージアムになるので、すっきりするかなと思いました。そうしたことから、ミッション、ビジョン、ポリシーという3つの頭の太字の文章だけ抜いて四角に入れることは不可能ではなのでは、と思っております。下の空間が空いているので、デザイン的には1枚に収まるかなとも思いました。

ただ「3 施設の考え方」と「4 施設の設置に向けて」に関しては、主体がミュージアムではなくて「川崎市」になると思うので、これは別の項目だと思えました。先程言った10番の項目がこの中に入ってきたときに、主体が異なるものが入ってきていて私がモヤッとしていた部分がありますので、この3と4に関してはこの四角の枠に入らないかな、と思っております。以上です。

垣内議長

はい、ありがとうございます。今回の諮問は、きっかけは施設もコレクションも浸水してしまったという異常事態があつて、それに対して復旧のあり方という諮問だったというわけですね。それに関して改めてミュージアム、博物館、美術館の融合なのか、あるいは機能をそれぞれ整理するのかなということもあつていろん

な議論をしてしまったために、少し焦点が絞りがちでないところもあるかと思えます。ただ、今までの議論の内容は全て答申に入っていると。けれども整理の仕方にかなりご疑問のある先生方がいらっしゃるだろうことだと思えます。例えばこの「新たなミュージアムの今後のあり方」の10番について内容に反対される方はいらっしゃるわけで、後はどういった形で市長に提出するのか、そして市長の背後にいらっしゃる市民の方々にメッセージを届けるのかになるかと思えます。この辺につきまして他の先生方、大原先生、佐藤先生、それから榎木先生の方からも何か追加でご意見があればお伺いしておきたいと思えます。

事務局

すみません。田中先生が入っていただきました。

垣内議長

田中先生いらっしゃいますね。他の先生方もいろいろなご意見をいただいております。私が理解したところでは内容的に問題があるというよりは打ち出しの仕方と申しますか、最終的には先生方のお名前をつけてこのあり方部会として親会議に提出し、そして市長にお渡しするということですので、先生方のご意見としてしっかりまとめなければいけません。もちろん最終的には時間的な制約もありますので事務局と私に一任していただかなければいけないのですが、その前に先生方のご意見とその背景にある考え方、ぜひ承りたいと思えます。よろしくお願いたします。

田中委員

はい、ありがとうございます。私も事前連絡も含めて内容については、書かれている内容で特にダメ出しをするつもりは全くないのですが、途中から入ってきて少しだけ聞いた議論の方向性を考えると、いかにわかりやすく見やすく伝えやすくするかということだと思います。そこは確かに、私も大学でいろんな課題を出していて学生からもいろいろ意見を聞くと、レポートのためにこういった資料をネットで検索して学生は読むのですが、読み難いという意見を言っている学生も結構います。非常にわかりにくいと言われたりするので、その見せ方をどうしていくのかだと思います。

カテゴリ分けで、これが誰に向けたメッセージなのかということも出すのがよいと思えます。先程施設の話もあったので、これは施設の話、これは誰に向けたものでどういう目的のためのあり方なのか、文章なのかというカテゴリ分けを、見出しでもいいので、もう少しわかりやすくすればよいという気はするのですよね。例えば、これが教育普及的なことであればコミュニティに対する教育普及的な役割とか。施設だったら施設でも、参加する市民に向けてでも何でもいいのですが、羅列していくと何が焦点なのかかわからなくなって来る気がします。いくつかのカテゴリに分けてこれが誰に向けたものなのかと、もちろん市民に向けたものなの

ですが、そうしたいくつかの束にしてもいいのかという気がしています。とりあえず以上です。

垣内議長

はい、ありがとうございました。今のご意見は2ページの「新たなミュージアムの今後のあり方」を少しクラスターにして、市長、市役所宛て、それから市民、どちらかという市民向けのような形でカテゴリズしてはどうかというご意見だったかと思います。

最初に私が拝見したものは、活動のあり方みたいところで、そこではほとんど新たな市民ミュージアムがこんなことをしたらいいという分け方で、施設につきましては1項目立てて施設のあり方として記載されていたと思います。それは、今回入れて7回しか会議を開催していないことから時間的な制約もあり、議論した中心はやはりこのピンチをチャンスに変えて川崎市民のための市民ミュージアムがどうあるべきかという活動や機能といったそういう部分に議論が集中しました。そのため、活動のあり方の記載がボリュームの大きすぎるものになってアンバランスな形になったために、これを10項目として合体したということがあります。なので、具体的な議論をしてないものですからカテゴリズするというのも難しいところがあって、それで少しわかりにくくなっているのかなという感じもいたします。

今の段階で時間も押してきていますが、こういう報告書自体の構成とそれから表現の仕方、特にそれが最終的に2ページの四角の中に集約すべきなのか、そうではない方向で整理するのかというところが1つのポイントになってきているかと思います。ただ先程も言いましたが、なかなかこういう報告書は力を入れて作っても読みきってもらえないので、出来る限り簡潔に、だけどどういう内容なのかということ、あまり知らない方にもわかるようにということで事務局としては少し修飾語も加えてこの2ページの形になったと思います。もちろん、この2ページにある四角囲みをなくすという御意見もありましたが、四角囲みがあって1枚になった方がよいかと私は思います。ただその時には杉浦先生がおっしゃったような打ち出しの仕方もあるし、あるいはこの10項目を少し文言整理するというやり方もあると思います。その辺もう少しご意見頂戴できるとありがたいですがいかがですか。金山先生お願いいたします。

金山委員

画面を共有したいのですがよろしいですか。

～川崎市市民ミュージアムのミッションについて画面を共有～

これが川崎市市民ミュージアムの以前のミッションです。3つあり、内容について

てどうという話ではないのですが、コンパクトにこうやって提示するという例です。これと照らし合わせて、今回の「答申に至る考え方」の構成について、もう一度私なりに意見を言わせていただきたいと思います。

まずこの(1)の「基本的な理念」というのは、私の考え方としてこれは理念という意味ではなくてむしろビジョンだと思うのですよ。ビジョンというのは博物館として将来的な展望を示すということですよ。ですから内容的にはこういうことでよいのですが、展望を示すのであれば2つというのではなくて、先程お話ししたように1つにまとめた方がよいのではないかと思います。その時に箇条書きで「・○○ ・○○ ・○○」のような、形で表に出すということはしなくてもよくて、内部の資料として取っておけばよろしいのだらうと思います。

それから次の(2)「めざす姿」というのは、ビジョンを受けてのミッションなのだろうと思います。このミッションは以前の川崎市市民ミュージアムで言えば、スライドで見せている部分にあたるものということで、このミッションにあたる部分が今回4つあります。これについても先ほどお話ししたように数字のところだけを出しておくことでよろしいのではないかと思います。

そして4ページの2「めざす姿に向けた方向性」、この(1)から(4)は、それぞれのビジョンに対応した関係での施策という位置づけだと思うのです。それが①、②、③とそれぞれに述べられていると。それで、それぞれにまた丸ポチ(・)が入っています。これは事業、施策を受けた事業と、それぞれの階層的に落とし込んでいくことができる内容が書かれていると理解できます。そのように考えていけば、構造としてはこれで整っていくし、階層化も問題は無いのではないかと思います。

ただ問題なのは、「新たなミュージアムの今後のあり方」ですよ。これは先程から議論になっているし、部会長がおっしゃったような問題になるのですが、ここについては私もそう思います。杉浦さんがおっしゃることと同じで、文章をそのまま活かすよりは、むしろ私の理解で言えばビジョンとミッションとそれから施策と、それから施策を受けた事業、それを箇条書きとして入れていけばここはきれいに収まるのではないかと思います。

垣内議長

はい。ありがとうございました。今のご提案に関して他の先生方がいかがでしょうか。まず新たなミュージアムのミッション、使命はいずれにせよ最終的に住民福祉のための公の施設でありますから、そこがミッションになるのだらうと思います。条例にも書かれている部分です。それを具現化するために、どのくらい、どこまでいくのかということがビジョンという、今ここで言う3ページの基本的な理念にあたる部分だと。では、その後どういう方向性で行くのか、めざす姿は何かというところがその後であると。そういう整理の仕方、この答申の今後のあり方にそれ

をそのまま反映させるというご提案だったかと思います。その時に1つ抜ける部分は施設の関係ですね。ここはどう書き込むのか。つまり1から9は活動ですから、まさにそのおっしゃっていただいたようなことを集約したものと考えられますが、活動の場となる施設のあり方についても何か考えるということでしたので、そこが10番になっているとして整理できるのかが1つあるかと思います。もう1つは、実はいろいろな考え方で整理されてきましたが、構造的や階層性を厳密に求めると、リニアな関係というのでしょうか、例えばミッションとビジョンとありますが、ビジョンが1つでその下にフローチャートみたいな形についてくるという考え方もあるかと思います。それは非常にロジカルなのですが、逆に言うと今までいろいろ議論してきたものがロジカルに整えるために削ぎ落とされる部分がどうしても出てくる。それを事務局としては恐れて、これまで出た議論をできるだけ盛り込む形で、逆に言うとロジカルな整合性を犠牲にしてもこのプロセスの考え方を盛り込んでおきたかったということなのかとも理解できるところであります。今回が最終回なのでどう調整できるのか、整理するのか、また私の方でもよく考えてはみたいと思うのですが、どういう形で出すのが一番よいのか、つまり市長さんに提出するということは、市、市役所、具体的には行政機関ですが、さらに市民の方々にとってよい市民ミュージアムというのはこういうものなので、ぜひこのように取り組んでくださいとお願いするスタンスだと思うのです。その点から考えると、やはり何をしてほしい、こういうものであって欲しい、だからこんな施設を考えてほしいと、具体的な取り組みの検討につながる形で打ち出していかなければいけないことがあると思うのです。そこについて今の金山先生のご意見も踏まえて他の先生方のコメントも頂戴したいのですが、いかがですか。整理しづらくて恐縮なのですが、もう少し時間があればよかったのですが。大原先生、それから佐藤先生、榎木先生、田中先生あたりこの今の話についてコメントいただけないでしょうか、お考えをお聞かせいただけないでしょうか。

大原委員

難しいと思うのは、誰かが形を作らないとなかなか見せにくいかなと。内容はよいけれども、見せ方の問題だと思いますので。表現としてくどいというのは私もそう思いますし、それがなんとなくざわざわもじゃもじゃという感じのデザイン的に見えてしまうことだと思います。

どう解決するかについて、1つは、先程から3ページ以降をすっきりとさせていくということがありました。できるだけ枝葉の部分を落として、1行ずつというような表現にしていく、このすっきり感で表現するというのをむしろ先に出して、結論として私たちはこの10項目をあり方として提案しますとして、四角に囲んだ部分を後にもっていく。内容はこのままで、四角に囲んだ部分を後に持つていくというのものもあるのかなと思いました。つまり最初にすっきりした形でミッション

から始まって、ミッション→ビジョン→メソッドとかウェイというようなものがあって、今後のあり方として、2ページの「新たなミュージアムの今後のあり方」がまとめとして後にくるというやり方も、1つの提案ですがあるのではないかなと思いました。

それと、すっきりもいいのですが、私はいろいろ議論してきた中で、やはり現況もそうだし、川崎の「都市と人間」といったテーマ、市民ミュージアムというテーマに関しては、様々なものが実は入っているという、ツリーよりもリズムに近い形で、それがこの「新たなミュージアムのあり方」の中にむしろ表現されている感じがあって、それほど嫌いでもない感じはします。いろいろな視点から項目が入ってくるというあり方自体はそんなに間違っていないのかと思います。

ということで、先にすっきり、後でごちゃごちゃってというようなレイアウトというのはいかがでしょうかというのを思いました。

垣内議長

はい、ありがとうございます。私も割とこういう打ち出しは悪くないかと思いました。やっぱり最初に結論ありきってところが大事かなと思ったので。他の先生方がいかがでしょうか。佐藤先生。

佐藤委員

そうですね。どちらが好きというわけでもないのですが、先ほど金山先生がお話しされていた整理は1つの方法としてよく理解できたので、そういう方向でまとめるということもあり得るだろうとお話を聞いていて思いました。

その一方で、やはり「新たなミュージアムの今後のあり方」を、本当になくしてしまうことになったときに、6ページ、7ページにある「3 施設の考え方」と「4施設の設置に向けて」が、ビジョンやミッションにどのような書き方で行ってくるのかということは考えないといけないと思います。今回のこの検討の結果としては非常に重要なところだと思いますので、活動的なもののまとめと施設的なもののまとめとなっていくのかわかりませんが、6ページ、7ページにある3番なり4番なりにあたるところ、主に3番ですが、それらをきちんと採り入れて、その前にすっきりさせた2番と同じ位置づけにすることが必要だと思います。以上となります。

垣内議長

はい、ありがとうございます。それでは榎木先生いかがでしょう。

榎木委員

はい。私自身も整理しきれない部分があるのかもしれないのですが、ここに至るまでの話を伺っていて、やはり使命と理念の関係がうまく理解できてなくて。先ほど「Ⅱ 答申に至る考え方」の(1)「理念」の部分、これをミッションとして説明されていたと思うのですが、日本語でこれは基本的な理念となっているわけ

ですが、①と②はやはり使命に読めるのですね。「都市川崎の意味を未来につなげる」「文化芸術の未来を育む」「文化芸術の生み出される多様な価値を活かした地域社会を作る」は理念ではなくて、少なくとも使命なのではないかと思うのです。そうすると、この大項目1「新たなミュージアムの使命」がどうつながるのかがまだ解せない部分があります。理念というのはアイデアなので、例えば先程杉浦委員が例に出されていた、国立ウェールズ博物館で出されていたインテグレートが理念だと思うので、記載の「基本的な理念」は使命であって理念ではないのではないかなと。このまま出すのはちょっとおかしいことにならないかと今読んでいて感じました。理念で言うと、少し答申のほうに理念的な部分が、少なくとも「新たなミュージアムの今後のあり方」にあって然るべきと思うのですが、それにあたるものがあまりないのかなと思って。

ただ、この答申の前文にある、大きな意味を持つであろう文言として、博物館と美術館を分けて整理検討をしてこなかった、その大きな理由として両機能を併せ持つ、つまりインテグレートすることによって大きなシナジー効果が期待できるというのが今回の答申の1つのすごく大きな結論ではないですが、あり方としての方向性だと思うのですね。

ですから、それが前文に入っているだけではなく、それを先駆的、かつ先進的な取り組みを評価されてきたこれまでとつなげて、一層の進化を続けて未来につながるミュージアムですという部分が、少なくともこの前文ではなく「新たなミュージアムの今後のあり方」にあってよいのではないかという部分がちょっと気になるのですね。非常に肝心な部分が前文になってしまっているのではないかという気もして。その辺が少し気になった部分です。

垣内議長

はい、ありがとうございます。私はこの答申の、実は先生方皆、「新たなミュージアムの今後のあり方」のところで凄くご議論をいただいているのですが、この答申で今榎木先生がおっしゃったところ、この検討部会ではその両機能を併せ持つという未来志向型のミュージアムの強みを次に活かすこと、特に地域社会に活かしていくところを強調していることが非常によいと思っております。この上で、活動の方向性をあり方として囲み記事にしたという仕切りになっていて、それはそれでわかりやすいかと思ったのですが、杉浦先生、そして田中先生コメントいただければと思います。

杉浦委員

最終的にプレスなどのマスコミに出るリリースは一枚ものになるかと思いますが、それがこの「新たなミュージアムの今後のあり方」に象徴的に表されているのだと思っています。具体的には、ここで決まったことがコピーアンドペーストされて出てくる感じになるのかなと。先程田中先生がおっしゃったことが私として

はとても共感できるところなのですが、これからミュージアムのことを考えていく、それこそ税金を払っていく若い人たちが腑に落として支えていこう、一緒にやっっていこうと思えるようなミュージアムの姿がこの「あり方」の中に表されていれば、コピーアンドペーストされてもいいと思います。やはり先生方、事務局の皆様の話、そして垣内部会長のおっしゃったことを伺って、そう思うところです。

なので、ここで「新たなミュージアムの今後のあり方」の中で赤を入れて、ということではないと思っているのが正直なところなのですが、それでもやはりわかりやすいものになったら、私たちみんなにとってよいのではないかと変わらず思っています。

垣内議長

はい。ありがとうございます。こういう出し方で打ち出すのがいいのか、もしこの出し方を残すのであれば、この文言ではなくもう少し整理された形で共感を呼ぶわかりやすい文言にするというようなことでしょうか。

杉浦委員

何度もお伝えしているのですが、ミッションとビジョンなどの区別もあるのですが、(1)の2つの項目と(2)の4つの項目が入ってくるだけじゃだめなのかなと思っています。やはりだめなのでしょうか。

垣内議長

内容的にはほぼ重なっているなのでそこはそんなに大きな問題は無いのかもしれないですね。「新たなミュージアムの今後のあり方」の書き方はもう少し精査したほうがいいのかと思います。田中先生、もしよろしければさらにコメントを。

田中委員

はい、ありがとうございます。前半部分に参加してなくて申し訳ないのですが、今までの話を聞いていると「新たなミュージアムの今後のあり方」の扱いについて意見が出て、かなり議論されたのかなという気がするのですが、マスコミに出る時や発表される時は一部がクローズアップして出てしまうのがありますので、ぱっと一部が出て、それが一人歩きしてクローズアップされるのが悲しいところなのですが、なおさらこれを見た人、読んだ人が共感して一緒に作り上げていこうと思えるような文言、言うのは簡単なのですが、そういったものにまとめていければいいという感じがします。後は、この「新たなミュージアムの今後のあり方」はエッセンスを抽出したような感じになっていると思うのですが、そこがもう少し一言でわかるような、言うは易く行うは難しなのですが、集約されるといいのかなという感じがします。

後は本来であれば、確かにどれがどう対応しているというのがよくわかると、2ページと3ページや4ページがどう対応しているのかもわかるとよいのかなという感じがするのですが、ただそこまでやっっていくと、例えばこの2ページの1番は

3ページ以降の何と何に対応している、対象にしているみたいに、ごちゃごちゃ書いていくとなおさらわかりにくくなってしまいます。それは避けたほうがよいとは思いますが、書いてあることは悪いことでは無いのですが、少し硬いかなという印象がしますので、なかなか時間がないというところがあるのですが、いろいろなところのビジョンなり共感を呼ぶためには、スローガンではないですが解りやすい言葉で端的に表されているミュージアムも多いので、よいようにまとめていければいいのかなと思います。以上です。

垣内議長

はい、ありがとうございます。簡潔にしていく作業は結構、そっちの方が時間がかかります。たくさん書くことは比較的容易にできますが、それをどう整理していくかがポイントかと思います。なかなか時間がないまま本日に至ってしまいました、また司会がちょっと頼りなくて申し訳ございません。ただ先生方がこれまで議論された内容に関しては、十分に網羅されているところではあります。答申に至る考え方もちょっと整理が確かに必要な部分もあるかと思いますので、そこも踏まえまして一応この2ページの答申のところは、金山先生またご意見があれば具体的なところを頂戴したいと思うのですが、ここをできるだけわかりやすく精査するという方向ではいかがでしょうか。

金山委員

今の議長のお話だと、2ページ「新たなミュージアムの今後のあり方」の文章を活かしてもう少し修正を加えるという、そういう意味になるのでしょうか。

垣内議長

一応そういう想定をしていました。この後の「答申に至る考え方」については言葉の使い方、使命とか理念とかめざす姿とかありますが、そこはより精査することとして、先生がおっしゃったようにこの丸ポチ（・）の部分に微妙に違う文言が入っているところは、できればこの後の「めざす姿に向けた方向性」との関係がありますので調整をしつつ、つまり方向性を3ページの「めざす姿」、それから理念の丸ポチ（・）の部分を活かしながら、4ページ以降にちょっと加筆する方向性はあるかと思うのですが、この3ページの理念とめざす姿自体はすっきりさせるというような考え方で、この2ページの答申のところはつかみとして。内容は先生方何の問題もないかと思いますので、こういう方向性で行ってはどうかという気がしております。

金山委員

最終的には委員長のセンスとご判断に任せたいと思うのですが、やはり文章については再考していただきたい。この「新たなミュージアムの今後のあり方」の1番から8番、9番、10番はちょっと別にしても、この箇条書きの文章が、先程杉浦先生がおっしゃったようにやはり主語と述語の関係が対応していないのですよ。

だからその文章を、もう一度見直していただくことを、確認していただきたいと思います。

垣内議長

はい、ありがとうございます。杉浦先生いかがですかね。もうだいぶいろいろおっしゃっていただいたところなのですが。

杉浦委員

ちょっと言いすぎなので私はもう大丈夫です。

垣内議長

はい。お考えとその背景にあるお気持ちも充分理解したかと思います。成文で答申案を精査する機会は今回初めてですかね。なので、どうしても時間切れの感が否めないというのが私自身も思っております。もう少し時間があればきちんと精査して構造的とか文言の整理もできたのですが、今回事務局からはあり方部会の最終回と言われておりますので、今までの協議の内容等を踏まえまして答申（案）を修正し、その内容を確定することにしたいと思います。また、最終的な調整は金山委員からおっしゃっていただきましたが部会長である私と事務局で作業をさせていただくということにしてよろしいでしょうか。

全 員

異議ありません。

大原委員

大原ですけれども、ちょっと短い時間いいですか。基本的に私はこの構成をむしろ支持したいなと思っていて、最初の1ページに答申の文章と結果、結論として2ページ「新たなミュージアムの今後のあり方」が最初に出てくるというこの仕組みで私自身はよいと思っています。先程の文章でこの文章は書き手がちゃんとわかるように、つまりこれは今後のあり方とありますが、1つの行動指針でありめざす宣言であり、アジェンダですよ。これから市民ミュージアムはこうやっていきましょうという宣言だと思うので、これが最初に出てくる。ただこれは結論であって、この中身の1番から10番というのは非常に多様だということは、様々な委員会が出てきた意見が、逆に言うによく混ざり込んで入っているという感じがして、文章的に主語述語ということで誰が喋っているかをきちんとするのは必要だと思いますが、形としてはこれでよいと私は思っています。その後の部分はそれに出てきた背景ですから、抽象的な言葉が並んでいていいと思うので、ここはできるだけすっきりと、論理的というのは変ですが構造的に書かれていってもよいものだと思います。ということでちょっと余計かもしれませんが、基本的にはこの方針で進められるとよいかと私は思いました。

垣内議長

はい、ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。大丈夫でし

ようか。

私自身はこの答申を提出した後のことが非常に気になっております。先生方とともに一生懸命、7回にわたって結構いろいろな時間も使いながら作業を進めてきました。先程杉浦委員からもお話がありましたようにイギリスの方へのZoomでのヒアリングを実施して、これも大変参考になりましたが、そういった様々な作業をしながらここまで来たのですが、これをよりわかりやすくメッセージ性を打ち出すというもう一山あります。しかし、実はその後が非常に気になります。

せっかく取りまとめた答申です。2ページのIには「本答申は新たなミュージアムの今後のあり方に沿った取組の検討を」と書かれているのですが、検討というのは非常にニュートラルと申しますか、あくまで検討するということだけなので、どこかに具体化とか具体的な取り組みなど、何かもう一歩進むんだということを少し滲ませていただければなと個人的には思っております。

非常に長時間にわたり、そして7回にわたりご議論いただきましてありがとうございました。最終的な調整はもう少し必要だと思っております。場合によると答申(案)をもう一度先生方にお目通しいただくという機会を設けるかもしれません。時間的な制約がありますので、どこまでできるか分かりませんが、またその際は引き続きどうぞよろしくご協力お願いいたします。また、完成いたしました答申は各委員の先生方に送付させていただきますので、そこでもご確認いただけるかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 議題(2)「その他」

垣内議長

それでは続きまして議題の(2)「その他」についてですが、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

はい。これまでご議論ありがとうございました。今までたくさんの幅広いご意見をいただいて、これを集約するのも本当に大変難しい作業だったかなというのが1つと、一方で杉浦先生が言われたようにリバプールとかウェールズのようにコンパクトにわかりやすくすると、その裏には何がある、本当に大切な議論がこんなにあったのにとということが見えてこないとどうしようかなというそこら辺の狭間で、いろいろ苦勞した部分が今までございました。ただ本当に貴重なご意見をいただきましたので、行政としてもこれを大切に受け取りたいと思っております。ただ作業の時間がございますので、今後については垣内会長と進めさせていただきたいと思っております。

「その他」のところにつきましては7月6日、火曜日になりますが、親会議であります川崎市文化芸術振興会議が開かれ、答申を報告いたします。その後7月の中

旬ぐらいになると思いますが、川崎市文化芸術振興会議から市長へ答申をしていただくこととなります。その前には先ほど垣内先生が言われたように皆様方に答申を送らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。事務局からは以上でございます。

垣内議長

質疑につきましてはこの辺で終了させていただきますが、これまでの議題などを通して委員の先生方は何かございましたらお願い致したいと思いますが、本日で最後になります。また遅くエントリーされた田中先生、大丈夫でしょうか。

田中委員

では手短に。今回の答申についてはまとめていただくことになると思うのですが、こういった中身のものを作っても、これを実現していく体制作りも併せて考えていただければと思います。指定管理者制度や直営なのかとか、そういったところも含めたあり方の検討や体制作りといったところを併せてご検討いただければと思います。以上です。

垣内議長

はい、ありがとうございます。他にございませんか。私も具体的にいろいろ考えていただきたいと思います。もう施設も使えませんがコレクションもかなり傷んでいる中で、市民の方々に、市民ミュージアムが果たしてきたサービスをどんな形で継続できるのか、非常に心配しているところでもあります。今回の答申を通して市の方にもぜひ考えを新たにさせていただいて、博物館、美術館融合という素晴らしいミュージアムのこれまでの過去のメリットを最大限に活かしていける施策をお願いしたいと思っております。

金山先生ご意見でしょうか。

金山委員

先程委員長の方から資料、コレクションの廃棄の話が出ました。この委員会の中でも、当初はコレクションの処分についても話題になっていたと思うのですが、後半以降ほとんどその話はありませんでした。今後のこととして現在色々と修復等をしているコレクションについて、市としてはガイドラインを作成して、その処分の基準を作り、それを基にしてどうしてもやむを得ない場合、先日も多くの資料が廃棄されています。今後もそういう可能性があるのだろうと思います。ガイドラインを作成するという意義付けについてですが、ガイドラインがあるから不要なものを廃棄していこうとする意味ではないと思っています。ガイドラインを作成したということは、資料をいかに守っていくのか、資料を廃棄せずに守るのか、というような考え方を共有するために運用していただきたい。最終的に活用が目途が立たずに継続的に保管することができないと判断されれば処分や廃棄をすることはあり得る。しかしながら、これまでのコレクションをなるべく多く残す状態にも

っていくためにガイドラインを運用してもらいたいと思います。

垣内議長

はい、ありがとうございます。こちらの答申の考え方の方の7ページのところにも「適切な収蔵品管理」というようなことが含まれております。収蔵品の問題、非常に透明性も必要ですし市民の財産ですから、そういう観点から適切な管理をしていただくというようなことは考え方の中にも盛り込まれているという状況であります。

さて、他にございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。よろしいですか。それでは質疑も出尽くしたようでございますのでこの辺で終了させていただきたく思います。時間をオーバーしまして失礼いたしました。また先生方にはこれまで7回にわたって非常に多岐にわたる素晴らしいご意見を頂戴したこと、感謝申し上げます。議事につきましては以上となります。事務局にお返しいたします。

### (次第一 3) 閉会

事務局

はい。垣内会長また委員の皆様におかれましては長時間ご審議いただきまして大変ありがとうございました。また先ほど垣内先生からもお話がありました、去年の7月から全7回にわたり文化芸術振興会議市民ミュージアムあり方検討部会、これをもちまして終了させていただきます。本当にありがとうございました。